



生徒数		
1 年	8 5 名	3 学級
2 年	8 3 名	3 学級
3 年	9 2 名	3 学級
4 組	2 名	1 学級
5 組	3 名	1 学級
合計	2 6 5 名	11 学級

「おいしい給食」

校長

初夏のさわやかな風から、梅雨の季節、特有の湿っぽい風に変わり始め、本格的な梅雨がすぐそこまで来ていることを感じる季節となりました。1年生にとって最初の定期テスト、3年生にとって最後の大会、2年生は本格的な進路学習が始まり、それぞれ目標を掲げ子ども達は、元気に学校生活を送っています。

私が学生の頃はテレビで数多くの学園ドラマが放映されていました。武田鉄矢さんの「3年B組金八先生」(坂本金八先生)、中村雅俊さんの「ゆうひが丘の総理大臣」(大岩雄二郎先生)、水谷豊さんの「熱中時代」(北野広大先生)、他にも、川谷拓三さん、西田敏行さん等、有名なスターが先生役を演じていました。私はそんなドラマをよく見ていましたが、大人になり自分が教員になると学園ドラマも減り、見なくなりました。特に最近の学園ドラマは様相が変わりミステリー色やサスペンス色が強いものもあり、私は気分的に見ることができませんでした。

そのような中、自分が学生の時に見ていたような当時のテイストを残している学園ドラマに出会いました。それは市原隼人さん主演の「おいしい給食」です。舞台は北海道の公立中学校です。主人公の市原隼人さん演じる甘利田幸男先生は、普段はとてもクールで正義感が強く厳しい先生なのですが、人一倍、学校の給食を愛する先生で、給食の時間はその嬉しさの余りにキャラクターが豹変してしまう先生です。

「私は給食が好きだ。給食のために学校に来てるといっても過言ではない。」

このセリフが独白でいつもドラマの中で流れてきます。そんな甘利田先生は、

「教師が生徒以上に給食を楽しみにしていると知れたら。私の威厳は失墜する。ただ心の奥底で給食を愛するだけだ。」

という信念をもっており、生徒達に自分が部類の給食好きだということを知られないようにしています。しかし、給食の時の甘利田先生の様子を見ていれば誰でも先生の給食好きはわかってしまいます。そんな甘利田先生の学級には同じく給食をこよなく愛する男子生徒が1人いて、いかにその日の給食をおいしく食べるかというライバル同士のバトルが毎回、繰り広げられるコメディタッチのドラマです。80年代の話なので今の時代にそぐわない場面もありますが、自分が学生の頃に見ていた学園ドラマと同じ質の感動もあります。私はseason3の途中から見始めました。最終回は号泣してしまいました。目を真っ赤に晴らしているところを家族に見られ、「どうしたのか。」と聞かれ、その内容を伝えながらまた号泣してしまうほどでした。

「先生の仕事はブラックだから、先生になんかならないほうがいい。」というイメージが定着してしまっていますが、最近、インターネットを見ると中学生の将来になりたい職業ベスト10の中に男女ともに「学校の先生」が入ってきているのを目にします。昨年度の3年生の校長面接でも多くの生徒が男女問わず「将来、先生になりたい。」と答えていたことに驚きました。このドラマもヒットしていることを考えると少しずつ、「先生になるって、けっこう、楽しい！」という雰囲気徐徐になってきていると願いたいところです。

私たち教員は、子どもたちにとって一番身近に働いている大人として、働くことの楽しさを子どもたちに教えるとともに教員の魅力を伝えなければいけないと思っています。働くことは楽しいことばかりではありませんが100ある中に1つは「先生をやっていて良かった！」と思える瞬間が必ずあります。その一瞬があるので教員を続けていくことができると言っても過言ではありません。将来、自分から望んで教員の道を選び、そんな瞬間に遭遇できる生徒が本校から一人でも多く現れてくれるといいなと思います。

保護者の皆様、地域の皆様、本校の教育活動に対して、多大なるご理解とご支援とご協力をいただきまして、大変にありがとうございます。今後どうぞよろしくお願いたします。